

小平市公共施設白書

概要版 令和元年度改定版

● 本編は市ホームページ等をご覧ください。「小平市公共施設白書 令和元年度改定版」で検索してください。

作成の背景（本編 はじめに）

小平市は、公共施設を数多く建設し、行政サービスの充実を図ってきました。

現在、公共施設の多くは老朽化が進むとともに、今後予想される人口減少や少子高齢化により、公共施設を取り巻く環境が大きく変化することが想定されることから、市ではこれからの公共施設のあり方等について取組む公共施設マネジメントを推進しています。

このたび、2015（平成27）年2月に発行した「小平市公共施設白書（以下、「白書」という。）」の情報を更新し、人口や財政の状況をはじめ、公共施設の現状と課題についてまとめました。

今後、白書を活用し市民に公共施設の状況を知っていただくとともに、公共施設マネジメントの取組を進めてまいります。

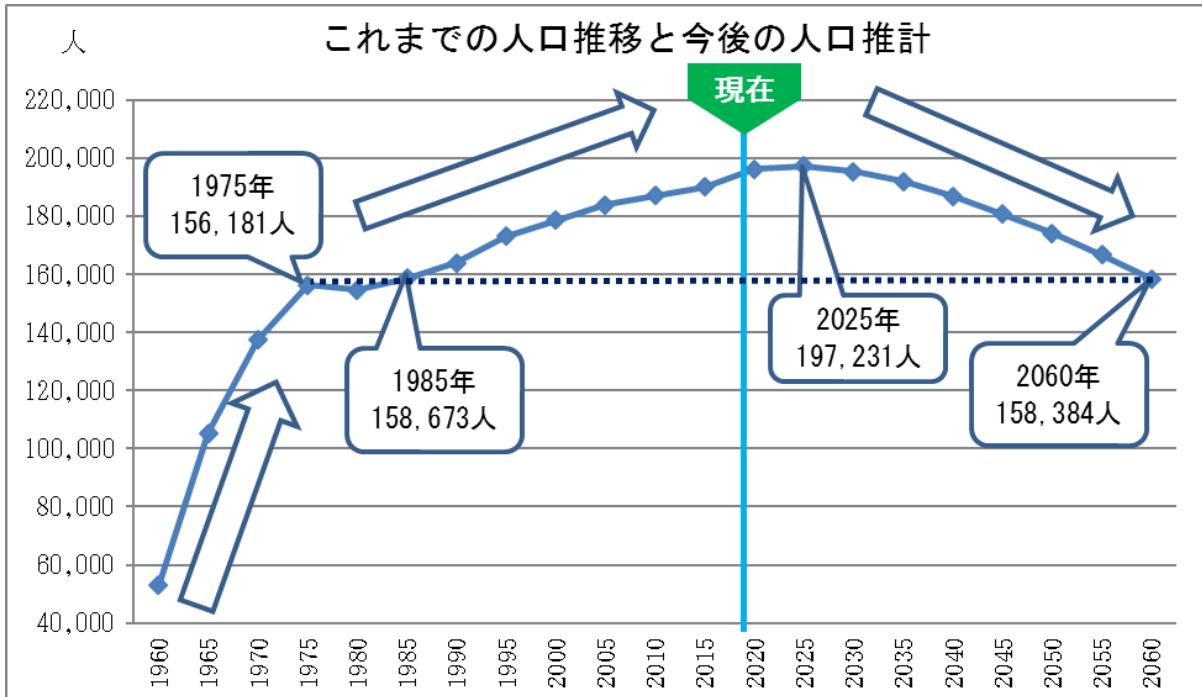
白書の対象施設（本編 1ページから7ページ）

白書は、市民の利用する図書館やスポーツ施設、行政サービスを提供する市庁舎等の公共施設を対象とし、道路、橋りょう、下水道、公園等のインフラ資産や小規模な公共施設は除いています。白書で取り上げる公共施設は以下のとおりです。

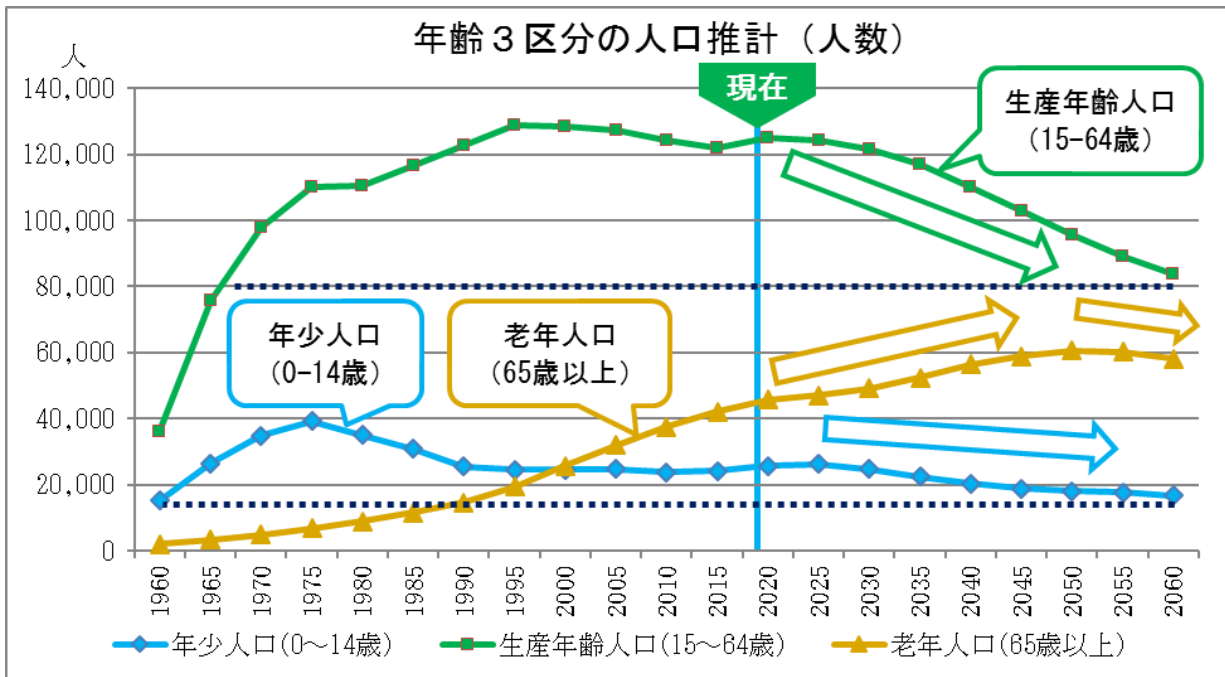
区 分	分 類	具体的な施設名
行政系施設	庁舎等	市庁舎、健康福祉事務センター等
	消防施設	消防団分団詰所、防災倉庫
	その他行政系施設	清掃事務所、建設事業所
供給処理施設	供給処理施設	リサイクルセンター、リプレこだいら
市民文化・社会教育系施設	地域コミュニティ施設	地域センター、公民館、元気村おがわ東等
	文化施設	市民文化会館（ルネこだいら）
	図書館	図書館
スポーツ・レクリエーション系施設	博物館等	小平ふるさと村、平櫛田中彫刻美術館等
	スポーツ施設	総合体育館、テニスコート、グラウンド、プール等
学校教育系施設	レクリエーション施設・観光施設	きつねっばら公園子どもキャンプ場
	学校	小学校、中学校
子育て支援施設	その他教育施設	学校給食センター等
	幼児教育・保育施設	保育園
保健・福祉施設	幼児・児童施設	児童館、学童クラブ等
	高齢者福祉施設	高齢者館、高齢者交流室等
	障害者福祉施設	障害者福祉センター、あおぞら福祉センター
	保健施設	健康センター
その他	その他社会福祉施設	福祉会館
	その他	自転車駐車場、被災者一時生活センター等

人口（本編 8 ページから 10 ページ）

小平市の人口は、2025（令和7）年の19万7千人をピークに減少すると推計しています。



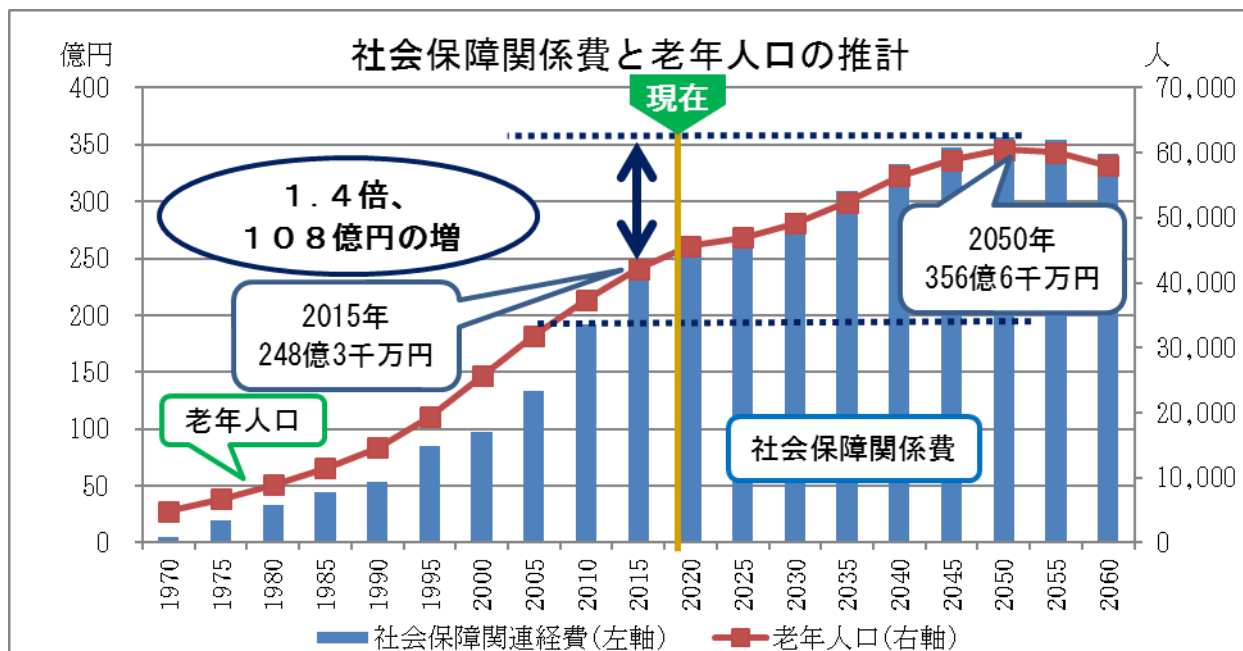
年少人口（0-14歳）、生産年齢人口（15-64歳）、老年人口（65歳以上）の年齢3区分の関係では、年少人口と生産年齢人口は減少を続け、老年人口は2050（令和32）年まで増加傾向が続くことが想定されています。



人口推計から、**人口減少・少子高齢化**が進んでいくと想定されます。

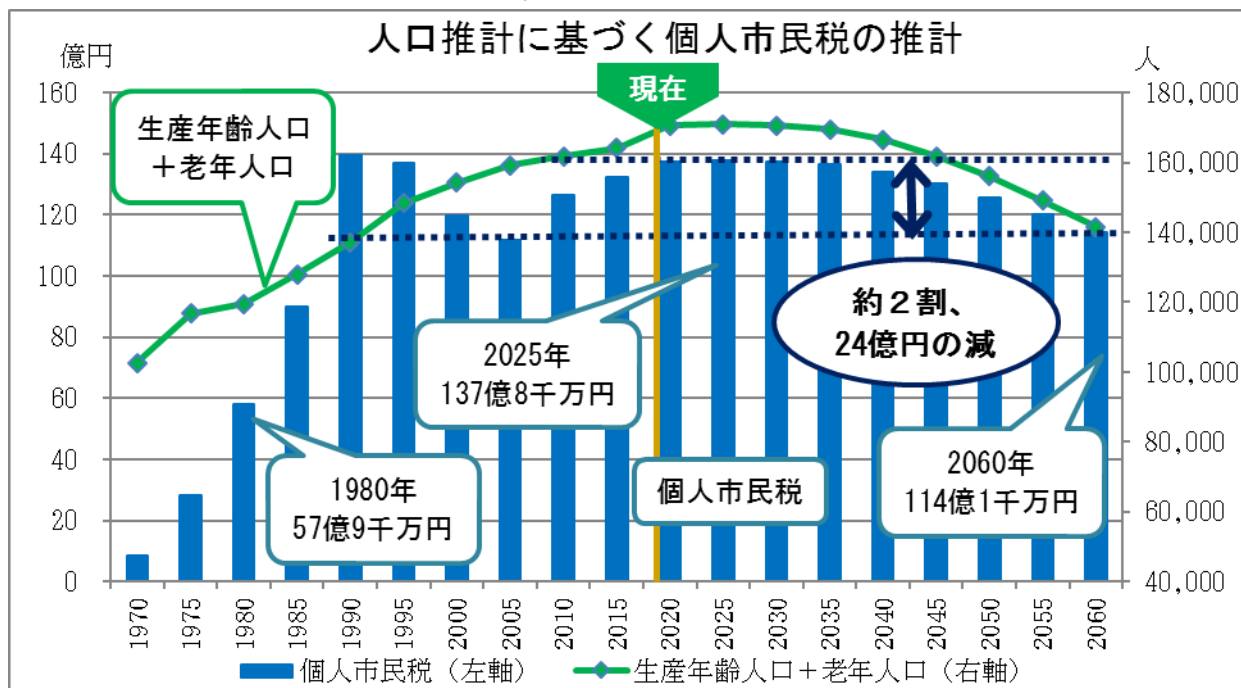
財政（本編 11ページから18ページ）

歳出では、老年人口の増加に伴い、生活保護や介護などに係る社会保障関係費が、2015（平成27）年度の248億3千万円から、2050（令和32）年度には1.4倍の356億6千万円となり、108億円の増になる可能性があります。



※社会保障関係費の推計は、現行制度を前提として、老年人口推計の伸び率を乗じて算出しています。

一方、歳入では、生産年齢人口と老年人口の減少に伴い、個人市民税が2025（令和7）年度の137億8千万円から、2060（令和42）年度には114億1千万円となり、24億円で約2割の減となる可能性があります。

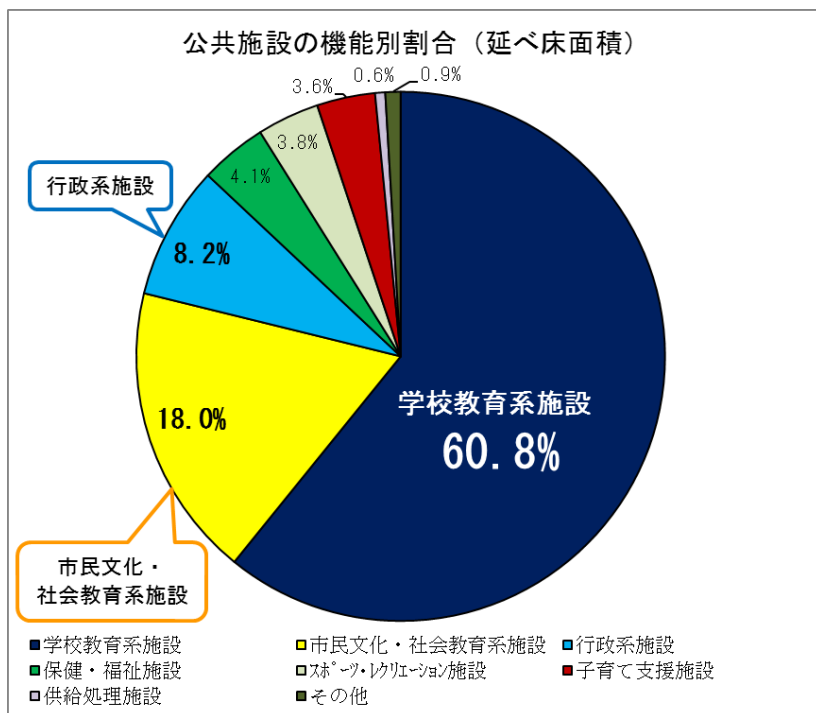
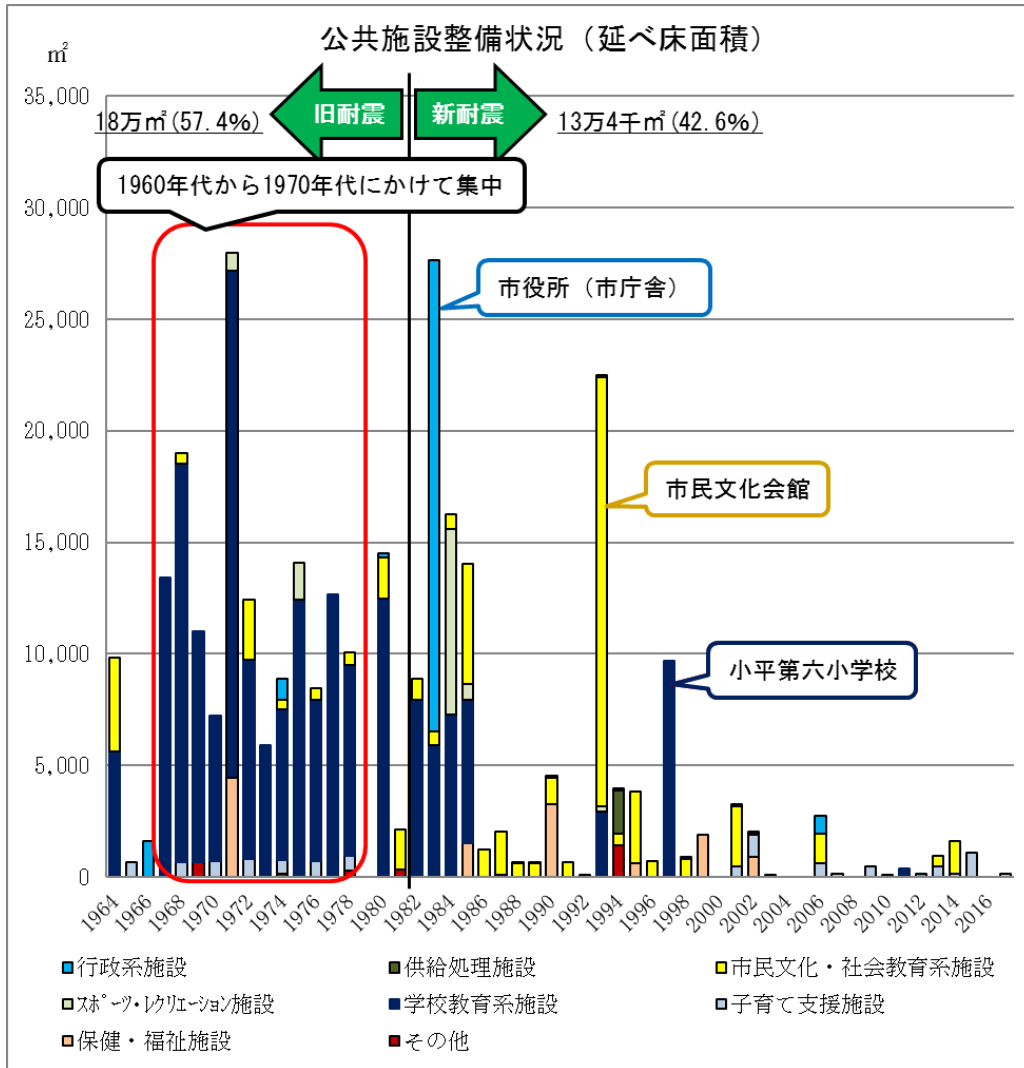


※個人市民税の推計は、現行制度を前提として、生産年齢人口及び老年人口推計の伸び率を乗じて算出しています。

人口推計に基づく財政分析では、**財政バランスの悪化**が想定されます。

公共施設の状況 (本編 19ページから30ページ)

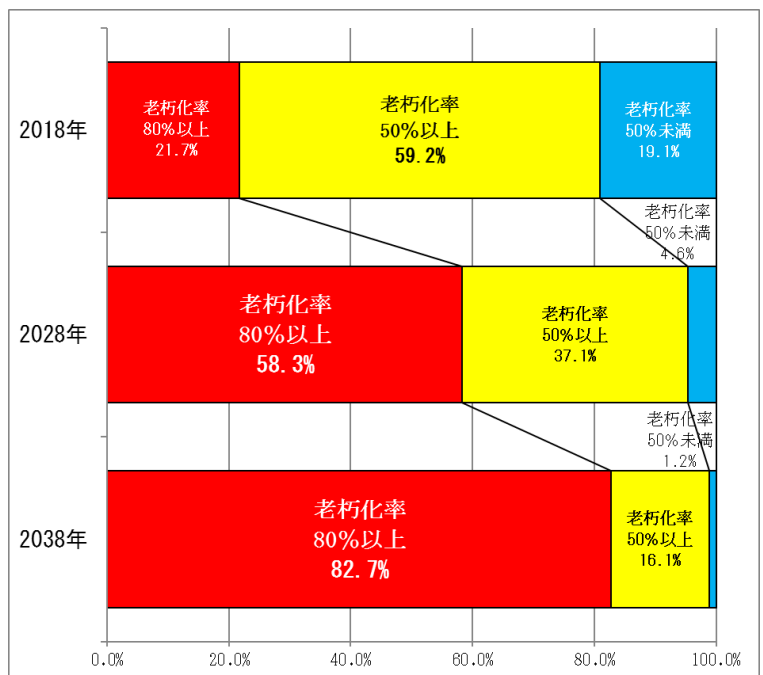
小平市の公共施設は、急激に人口が増加した1960年代から1970年代にかけて集中して整備し、1980年代以降も、市役所(市庁舎)や市民文化会館(ルネこだいら)など大規模な施設を建設、2018(平成30年)年現在で公共施設の数は一八八施設、総延べ床面積では三十一万㎡となっています。



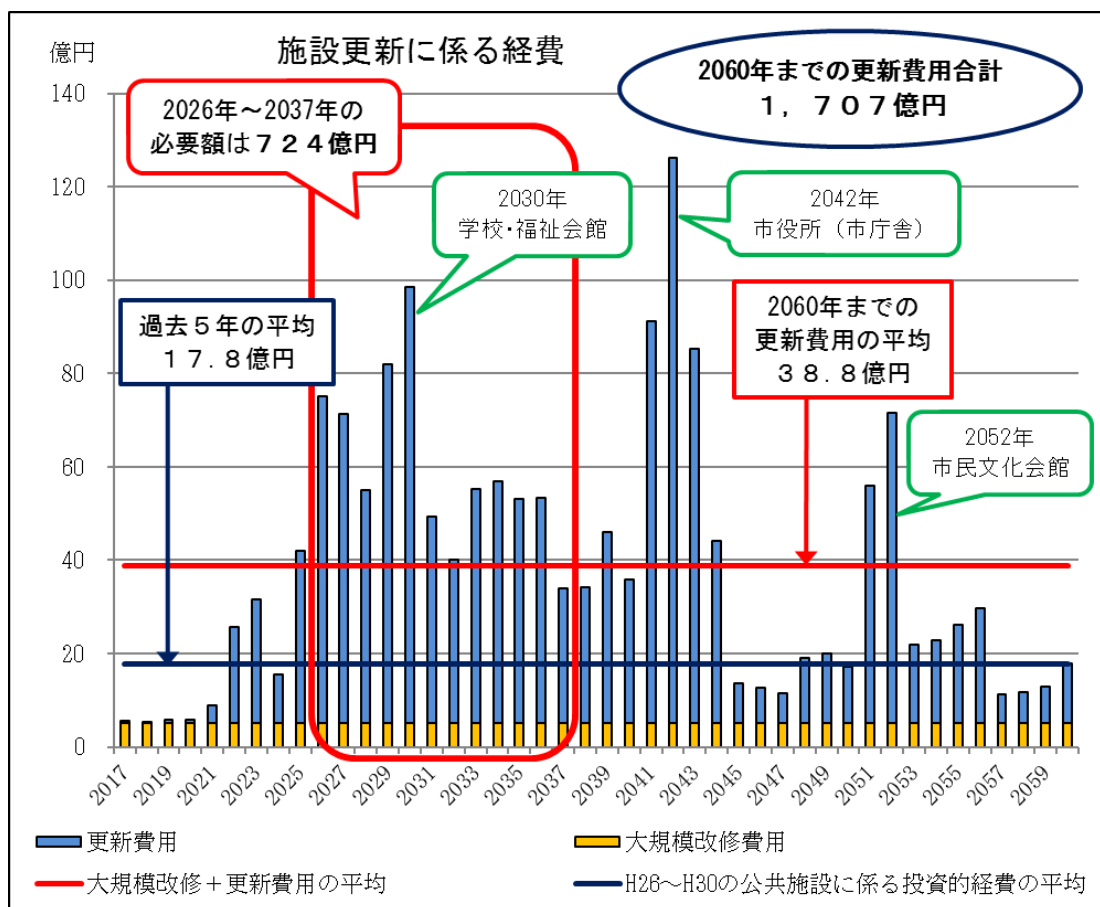
分類ごとの延べ床面積の割合は、小・中学校の校舎・体育館などの「学校教育系施設」が全体の60.8%を占めています。続いて「市民文化・社会教育系施設」、「行政系施設」となっています。

公共施設の老朽化の状況は、2018（平成30）年を基準として、老朽化率50%以上が全体の約60%を占めており、20年後には老朽化率が80%以上の公共施設の割合が80%を超え、多くの建物が更新時期を迎えます。

老朽化率：目標耐用年数に対する経過年数の割合



これまで保有してきた公共施設を全て同じように更新する場合、2060（令和42）年までの更新費用の合計は1,707億円にのぼり、毎年38億円以上の費用が必要となります。2014（平成26）年度から、2018（平成30）年度までの5年間に公共施設の改修等に使われた費用の平均は17.8億円なので、毎年2倍以上の資金を準備しなければならないことになります。また、2026年から2037年にかけて、多くの公共施設が一斉に更新の時期を迎えます。



公共施設の状況から**施設の老朽化・更新時期の集中**が想定されます。

機能別の特徴と課題（本編 31ページから124ページ）

白書では、機能別に特徴と課題を記載しています。機能は、この概要版1ページの分類表の分類欄に記載している「庁舎等」から「その他」までの19項目となります。それぞれの機能について、次の4つの視点で分析し、特徴と課題を示しています。

1 用途分類、設置目的等	施設が担う役割などの視点
2 設置の経緯・配置基準	施設を設置した経緯や配置のバランスなどの視点
3 利用・運営状況・類似性	施設の利用状況や運営に係るコストなどの視点
4 機能が属する土地・建物の状況	施設の耐震・バリアフリーなどへの対応に関する視点

まとめ（本編 125ページ）

「人口減少・少子高齢化」、「財政バランスの悪化」、「施設の老朽化・更新時期の集中」の課題に対して、公共施設等総合管理計画、小平市公共施設マネジメント基本方針及び小平市公共施設マネジメント推進計画に沿って、取組を着実に推進する必要があります。

白書は、市民に市の公共施設を取り巻く環境の変化を伝えるための大きな役割があります。

今後、あらゆる機会を通じて、市の公共施設の現状と課題を周知していくことが、公共施設マネジメントを推進するための大切な要素となります。若い世代を含め多くの世代の方々の関心を高めるために、白書を活用した周知を行います。

また、白書では公共施設の総量把握から各個別施設の利用状況など、様々な角度から公共施設の現状等を分析しています。白書を、これからの小平市公共施設マネジメント推進計画等の見直しや個別施設のあり方等を検討する際の基礎資料として活用します。

参考：小平市公共施設マネジメント推進計画とは

小平市公共施設
マネジメント推進計画
2017-2026

平成29年3月
小平市

市制施行100周年を見据えた大きな方向性を示した「小平市公共施設マネジメント基本方針」に沿った取組の推進に向けた方策を示した計画となります（2018（平成29）年3月策定）。

老朽化する施設に対して、どのように更新等を進めていくかといった基本的な検討手順や安全・安心な公共施設等を保つとともに、財政負担を軽減するための方策等について示しています。

市ホームページでもご覧になれます。

小平市 企画政策部 公共施設マネジメント課
〒187-8701 東京都小平市小川町二丁目1333番地
電話：042(346)9557 Fax：042(346)9513
メールアドレス：facility-mg@city.kodaira.lg.jp